

スズガモ（カモ科） 全長45センチ

2月中旬、県内は強風で大荒れの天気となった。日本海側の海岸を巡りながら象潟漁港に到着。海岸線は強風で波も高かったが、港は防風林と防波堤に囲まれ風も穏やかで、漁船が多数停泊していた。漁船の近くで、県内ではあまり見かけることがないスズガモが見つかった。東京湾には、毎年数万羽が飛来するくらい数が多いカモ類ですが、県内ではそれほど多くは見られません。スズガモの他にもホシハジロやキンクロハジロ、オナガガモ、シノリガモが見られることから、悪天候時の避難場所となっているのでしょう。



スズガモ、オス

スズガモと似ているのがキンクロハジロ。どちらも体の大きさ、クチバシの形と色具合、目が金色でそっくりです。簡単には見分けが付きません。唯一の違いはスズガモの背中上は灰色で、キンクロハジロは真っ黒。主に海辺に生息することから、大仙市内では観察されませんでした。初めて見るスズガモに感謝しながらじっくりと撮影していると、メスも見つかった。クチバシの付け根が白く、両頬には白い斑点があります。



スズガモ、メス



左がスズガモ、右がキンクロハジロ、よく似ています。

港に滞在するカモ類は、殆ど警戒心がないのだろうか。

駐車場から僅か10メートル以内の近さであったが、誰も逃げ去ることもなく昼寝を決め込む者もいるではないか。

漁を終えて戻って来た漁船は、ここで売り物にならない魚を野鳥や野良猫などに与えていることから、港は餌を貰えて安全な場所と知っているのでしょう。野鳥と漁船の信頼関係が垣間見られる象潟漁港でした。



左がシノリガモ、オス。真ん中がスズガモ、右端がキンクロハジロ。



左下からスズガモ（オス）、シノリガモ（オス）、キンクロハジロ（オス）2羽、右上がキンクロハジロ（メス）。